

平成30年度 月島第二小学校自己評価報告書

中央区立月島第二小学校 住所 中央区勝どき1-12-2

校長 鈴木 政博

児童数 574名 学級数 21 教職員数 53名

教育目標

○ 心の豊かな子ども ○ よく考える子ども ○ たくましい子ども

1 今年度の達成状況と取組状況

重点目標1 「勉強を教えてくれるから、学校が好き」 確かな学力の向上を図る

評価項目：全ての児童にとって、分かりやすい授業への授業改善

- (1) 評価項目の①③④については、児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価80%は、ほぼ達成できている。これは昨年度に引き続きの結果であり、肯定的評価が今後も下回らないよう、指導の工夫や改善を行っていくようにする。
- (2) 評価項目②においては、保護者からのアンケートの結果から、ICT機器の活用を望む声が見られ、肯定的評価80%に満たない結果となった。学校全体でICT機器活用の指導の改善や研修を行うなどし、教員のスキルアップを図る等の工夫を行っていく。
- (3) 評価項目の⑤では、児童アンケートの結果から90%の児童が算数科少人数習熟度別授業に肯定的な評価をしている。同様に保護者からのアンケートの結果からも本校の算数科における少人数指導においては、90%以上が肯定的な評価を行っている。これらの結果から、児童の基礎基本の定着を図るために有効な取組であると受け止められていることが分かる。学力向上への重点的な取組の一つとして今後も継続していく。また、「東京ベーシック・ドリル」を活用した放課後の補習活動「さんすう塾」を引き続き行うなど、今後も個に応じた指導の工夫を展開していく。
- (4) 本校の校内研究である「授業のユニバーサルデザイン化」においては、児童が安心して過ごせるための教室の環境整備や、分かりやすい授業を目指した授業改善の取組を実施することができた。児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価が、80%以上という結果からもその成果が見て取れる。また、平成28年度第4学年及び平成30年度第6学年の中央区学習力サポートテストにおいて、同一集団で比較したところ、1.0～4.1ポイント全国平均値での差が上昇した。

重点目標2 「へんじ・あいさつ・あとしまつ」 礼儀正しい子どもを育てる

- (1) 評価項目①②③について、児童、教員、保護者、外部評価委員の肯定的評価80%が達成された。「へんじ」や「あいさつ」では「大きな声で行う」「気持ちのよい声で行う」など、児童は、相手を意識して礼儀正しい行動を取ることができている。これらの行動を励行し、今後も定着を図っていく。
- (2) 本校の教員は、児童の「あとしまつがよい」と感じている。また、児童も「学校の約束は守る」「みんなで使う物は大切に使う」「友達となかよく生活する」ことについて95%以上が肯定的に自己評価している。この結果は、「豊かな人間関係の育成」や「規範意識の向上」につながり、児童の成長が見られたと評価している。今後も本校児童の良さをさらに伸ばす指導の工夫に努めていきたい。

重点目標3 特色ある教育活動の充実

(1) 評価項目を振り返って

- ① マイスクールスポーツ「なわとび」は年間を通して推進し、児童の体力の向上を図ることに有効であった。
- ② ハートフル学習の充実はP T Aの協力も得て、様々な取組ができた。ボランティア委員会を中心に、カンボジアへの文具寄付の他、ユニセフを通じて募金活動も展開した。日常活動として、今後も継続していく。
- ③ 「中央区版一校一国運動」として、カンボジアにおいて学習を進めることができた。今年度も2つの学年で交流学习、体験学習を展開し学習内容を深めることができた。今後もカンボジアとの交流学习の内容を工夫していく。
- ④ 第5学年が環境学習の成果を「子どもとためす環境まつり」で展示発表を継続している。また、たてわり班活動として行う町での清掃活動も今後も継続していく。
- ⑤ 「体力調査」の結果を受け体力の向上を目指し日常の運動に親しむ活動を工夫してきた。本校のマイスクールスポーツであるなわとびで、持久力を高めることもその一つであった。全校の取組として実施している「なわとび検定」では全校児童が参加し、技能を高め技を磨き合う姿が年間を通し見られる。体力の向上を図る取組として今後も実施していく。
- ⑥ オリンピック・パラリンピック学習では、②③④について、児童アンケートの結果から、児童の関心を高めることができたと考えている。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

家庭や地域との連携

- (1) ホームページについては保護者アンケート、教員の自己評価とも改善が必要であることが明らかになった。ホームページと合わせ、学校便りである「たより月二」や、学年だより等、学校からの情報提供の内容について工夫を行っていくようにする。
- (2) 保護者アンケートから、学校の地域を生かした教育活動に対して肯定的評価が80%以上であることが分かった。今後も家庭や地域との連携を図るためにも、学校は、P T Aや地域行事へ積極的に参加するとともに、保護者には学校行事・保護者会等への協力を依頼して、相互の連携を図ることを積極的に進めていくようにする。
- (3) 今後も重点目標の周知を図り、保護者に自己評価アンケートに協力してもらうような工夫を行う。

3 今後の改善策

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」で、確かな学力の向上を目指す授業改善
 - ・全ての児童にとって「分かる」授業づくりを行う。
 - ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、教室環境の整備を行う。また、教材教具や授業展開等も、ユニバーサルデザインの視点で工夫していく。
 - ・I C T 機器の活用の工夫を行う。
 - ・「考える」と「話し合う」等、学習形態の工夫でより学習内容の理解を深める。
- (2) 「へんじ・あいさつ・あとしまつ」を行い、自分を、相手を、みんなを大切にする。
 - ・大きな声で、返事をする。
 - ・気持ちのよいあいさつをする。

- ・後始末を進んで行う。
- ・相手の立場に立って、礼儀正しい行動をとる。
- ・「へんじ・あいさつ・あとしまつ」の3つを柱に、家庭・学校・地域で連携をとり、大人も一緒になって実践していく。

(3) 特色ある教育活動にオリンピック・パラリンピック教育との関連を図る。

- ・中央区版一校一國運動として、カンボジアについての交流をさらに深める。その際には「東京 2020 大会」を視野に入れた活動計画になるようにする。
- ・「なわとび」の推進とともに、日常的な「運動」を学校生活に取り入れる。
- ・環境教育を生かした実践的なエコ活動に、地域との連携を図りながら、学校全体で取り組む。

(4) 学校の教育活動の発進力を高める

- ・本校の教育活動や児童の活動についてを保護者や地域に発信する。
- ・教育活動への保護者の協力を得られるような取組の工夫を図る。
- ・家庭・地域・学校が連携を深め、協働しながら、児童一人一人の成長を促す指導を推進する。